

八戸市史だより

第12号

発行日 平成20年5月8日

八戸市史編纂室

はちのへ市史研究第6号発刊



- 古代集落からみた地域社会の変化
お浜入り神幸祭の今昔
 - 高野山の南部家墓所について
羽仁もと子が書いた西有穆山
八戸藩江戸留守居役・野中鏡与による上方情報
秘蔵「アラング文庫」と八戸～占領期の八戸～
 - 公儀馬買と八戸藩
平民の反乱
- 大正時代の十三日町の写真
が目印!!

資料や論文の紹介を中心に、八戸市史編纂室の活動報告や、八戸の歴史に関する研究の最新情報をお届けする『はちのへ市史研究』の最新号が発売されました。今回は、考古、民俗、近世の三つの分野の研究論文、八戸にまつわるいずれも興味深い資料の紹介、そして、随想や市史専門部会の活動報告などを掲載し、バラエティー豊かな内容となりました。研究論文は、考古分野では古墳時代から平安時代までの八戸市内集落遺跡の変遷、民俗分野からは櫛引八幡宮と御前神社で行われている“お浜入り”、近世分野からは高野山遍照光院にある盛岡・八戸両南部家墓所の調査結果を採り上げています。また、資料紹介では、八戸藩日記から維新前夜の上方情報や西郷吉之助（隆盛）に関する記事、羽仁もと子による同郷の傑僧西有穆山の記述、そして、メリーランド大学ブラング文庫に残されている戦後混乱期の八戸で出版された新聞や雑誌などを紹介しています。

いずれも郷土はちのへの歴史や民俗を深く掘り下げた内容となっています。定価は1,700円、市内各書店で発売中です。

主な内容

- 研究論文
- 古代集落からみた地域社会の変化
 - お浜入り神幸祭の今昔
 - 高野山の南部家墓所について

資料紹介

- 八戸藩江戸留守居役・野中鏡与による上方情報収集 付・八戸南部家文書史料中の西郷吉之助（隆盛）羽仁もと子が書いた西有穆山
- 「ブラング文庫」と八戸～占領期の八戸～市史随想

- 公儀馬買と八戸藩
- サ行の反乱



裏表紙は現在の十三日町です。

ちょっと一息 漢字クイズ

答えは裏面にあります。

読み方

- (1) **固** 【ヒント】 (2) **爰** 【ヒント】 (3) **姑** 【ヒント】
はじめから 話し手に近い場所や事柄などを指す。 少しの間
- (4) **就中** 【ヒント】 (5) **五十集** 【ヒント】 (6) **臆** 【ヒント】
とりわけて のかつちゃ 間もなく 結局

用語の意味

- (7) **八里半** 【ヒント】 (8) **鳥目** 【ヒント】
栗は九里と当て字されることがあったため、これに因んで栗に近い味がするある物は、こう呼ばれることがありました。 鳥の目に似たある物。



新編八戸市史・はちのへ市史研究の 主な取り扱い書店

- 伊吉書院（西店） TEL 0178-28-8211
 - カネイリ（番町店） TEL 0178-46-1812
 - 木村書店（本店） TEL 0178-24-3366
- 市外の方もご購入求めになれます。詳しくは市史編纂室まで。 TEL 0178-73-3234



〔既刊案内〕

- 新編八戸市史 近世資料編
 - 新編八戸市史 近現代資料編
 - 新編八戸市史 自然編
- 全巻 B5 判ハードカバー / 外箱入り
約 500 ページ 各巻定価 5,600 円

部会短信

原始・古代・中世部会

当部会では、平成20年度に印刷予定の『考古資料編』の後に『中世資料編』と『通史編』を刊行する予定です。この中で『中世資料編』は、八戸近郊での調査研究者が見込まれなかったため、仙台市在住の先生方の協力を得ることになりました。2月に予定した会議が、悪天候のため新幹線が不通となり会議が延期になるというアクシデントもありましたが、3月には無事に会議を開催することができ、新メンバーで新たなスタートを切りました。

近世部会

現在、近世部会では昨年の新編八戸市史『近世資料編』に続き、『近世資料編』の編集・印刷を行っています。部会としては2度目の印刷作業となり、前回よりスムーズに進むという期待もあったのですが、やはりそう順調にはいかないものです。執筆者、印刷業者、事務局ともに、梅雨入り前には世に送り出せるように、鋭意努力中です。また、20年度は続巻の『近世資料編』の執筆を予定しており、まずは掲載資料の選定を進めているところです。

近現代部会

近・現代部会では、今年度は『近現代資料編』の印刷作業と、『近現代資料編』の原稿執筆活動を行う予定です。『近現代資料編』では、八戸市制が始まった昭和4年から、昭和の大合併を経て現在の八戸市の姿がほぼ出来上がった昭和30年ごろまでを対象に、当時の社会の様子が分かる資料を掲載する予定です。ちょうど来年5月に八戸市は市制施行80年を向えるため、それに合わせて本を刊行できるよう作業を進めていきます。

自然・民俗・文化財部会

民俗班は本編の原稿執筆が終わり、原稿が提出されました。その原稿をもとに今後の作業スケジュールについて打ち合わせの会議を開き、平成22年度の印刷を目指し原稿の精査作業を進めることとなりました。また、文化財班は新たに調査員を確保し、新メンバーでの打ち合わせ会議を開きました。今後は目次立てを優先に進め、掲載内容のデータ収集を実施、平成23年度の印刷を目標に作業を進めていくこととなります。

編纂室カレンダー

二十年一月～二十年四月

- 1 / 12 平成 19 年度第 9 回近・現代部会会議
- 2 / 9 " 第 10 回近・現代部会会議
- 2 / 14 盛岡市中央公民館近世資料撮影
- 2 / 23 平成 19 年度第 11 回近・現代部会会議
- 2 / 27 岩手県立博物館近世資料確認調査
- 3 / 9 平成 19 年度第 5 回近世部会会議
- 3 / 19 " 第 3 回自然・民俗・文化財部会民俗班会議
- 3 / 22 " 第 2 回自然・民俗・文化財部会文化財班会議
- 3 / 26 平成 19 年度第 6 回原始・古代・中世部会会議
- 3 / 27 " 第 12 回近・現代部会会議
- 4 / 7 東北大学付属図書館所蔵近世資料確認調査
- 4 / 9 青森県史編さんグループ所蔵近世資料確認調査
- 4 / 13 平成 20 年度第 1 回近・現代部会会議

- (1)「もと」より
- (2)「ここ」
- (3)「しばら」く
- (4)「なかんずく」
- (5)「いさば」
- (6)「やが」て
- (7)「さつまいも」
のこと
- (8)「金銭」(特に
穴あき銭)のこと

八戸市史だより

第 12 号

発行・編集 八戸市史編纂室

〒031-0022 八戸市糠塚字下道2-1

八戸市立図書館内

電話・FAX 0178(73)3234

E-mail shishi@city.hachinohe.aomori.jp